

「第9回アジアヒートポンプ・蓄熱技術ネットワーク ワークショップ」開催報告

2月25日にアジアヒートポンプ・蓄熱技術ネットワークの加盟7カ国（タイ、韓国、中国、インド、ベトナム、インドネシア、日本）の最大の年次イベントであり、通算第9回目となるワークショップが「ネットゼロエミッションに向けたヒートポンプの役割」をテーマとして開催されました。今回のワークショップは、新型コロナウイルスの影響を受け、全面リモートによる開催となりましたが世界各国から101名の方々が参加し、ヒートポンプ・蓄熱システムを取り巻く各国の政策や市場の動向などについて情報共有を行い、熱心な議論を交わしました。

基調講演では、欧州ヒートポンプ協会 事務局長 トーマス ノヴァック 氏より、欧州では、グリーンディール政策の下、高い目標をもって脱炭素化に向けた再生可能エネルギー利用率拡大に取り組んでおり、ヒートポンプ市場の拡大が予測されているとお話がありました。

加盟7カ国からは、タイの省エネルギー計画や4D&1E政策、韓国のグリーンディール政策、中国の脱炭素・環境政策等、また、いくつか

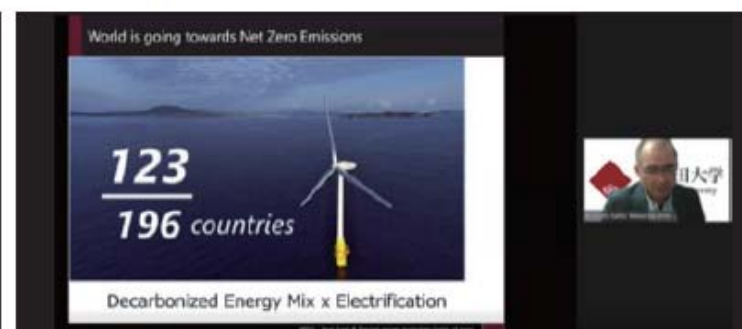
の国ではヒートポンプについて日本との共同研究やプロジェクトも実施されているとの発表がありました。日本からは、東南アジアヒートポンプ給湯機・蓄熱システム普及委員会の活動として、ベトナム、インドネシア、タイにおけるホテル・病院を対象としたヒートポンプ給湯機普及活動について報告がありました。

特別講演では、早稲田大学 教授 齋藤 潔 氏による、脱炭素化に向けた世界的なヒートポンプ導入の必要性の高まり、その中でのヒートポンプの役割として、省エネ機器としての位置づけだけでなく、未利用の再生可能熱の利用を拡大していくことや、再生可能エネルギー利用をより拡大していくために必要な電力需給調整システムや熱融通するシステムの中での多様な構成要素を結びつけることが示されました。

今回のワークショップは賛助会員ページよりオンデマンド配信しています。



タイ国エネルギー省による発表



早稲田大学齋藤教授による特別講演